

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	379				
部局名	教育委員会	所属名	生涯学習課	所属長	本郷 照彦
事務事業名	00804	生涯学習推進事業	記入者	山下 孝典	

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名称	根拠法令等	教育基本法
	方針	01	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります		
	政策	03	生き生きと健康に過ごせるまちにします	関連する個別計画	大津市生涯学習推進基本計画
	施策	04	生涯学習の推進		
	視点	01	生涯にわたって学べる環境づくり		
重事	01	家庭における教育の推進			

関連事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称

予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	政策	評価対象事業	生涯学習推進事業費	

事業の概要
大津市生涯学習推進本部を設置し、生涯学習に関する施策を総合的かつ機能的に推進するとともに、大津市生涯学習推進会議を設置し、市内の関係団体等の連携、協力による生涯学習の推進を図る。

運営方法 直営 指定管理者 民間委託 出資団体委託 補助金交付 その他 ()

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	生涯学習に関する施策を総合的かつ機能的に推進するとともに、市内の関係団体等の連携、協力を促進し、本市における生涯学習の振興を図るため。
対象 (何又は誰を)	一般市民及び生涯学習を推進する関係団体等
手段 (どのようなやり方で)	生涯学習推進フォーラムの開催、熱心まちづくり出前講座などの各種事業による学ぶ機会の提供及び関係団体のネットワークの構築等
成果 (どのような状態にするのか)	市民一人ひとりが、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を地域のために生かすことのできる社会の実現

< 3. 経費 > DO

	平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備考
直接経費 A	181	206	100	307	307	
人件費 B	3,791	3,510	3,023	3,023	3,023	
事業費合計 A+B	3,972	3,716	3,123	3,330	3,330	
事業費の内訳	国	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	一般財源	3,972	3,716	3,123	3,330	3,330
職員数 (人)	0.60	0.50	0.40	0.40	0.40	
職員数の内訳	正規	0.42	0.40	0.35	0.35	0.35
	嘱託	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	臨時	0.18	0.10	0.05	0.05	0.05

< 4. 指標 > DO

	指標名	単位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
活動指標	1 熱心まちづくり出前メニュー数	個	目標	111	112	113	114	115
			実績	133	124	133	-	-
活動指標	2 熱心まちづくり出前講座のメニュー数		目標					
			実績					
成果指標	1 熱心まちづくり出前講座参加者数	件	目標	2,790	2,800	2,800	2,850	2,900
			実績	3,293	2,752	527	-	-
成果指標	2 熱心まちづくり出前講座利用者の満足度	%	目標	0	0	0	74	76
			実績	0	0	0	-	-
	熱心まちづくり出前講座利用者の満足度							

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	380		所属名	生涯学習課	所属長	本郷 照彦
部局名	教育委員会		記入者	平出 新		
事務事業名	00834 家庭・地域教育推進事業					

<1. 基本事項>

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	教育基本法、天津市家庭教育推進事業補助金交付要綱
	方針	01	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります		
	政策	03	生き生きと健康に過ごせるまちにします	関連する個別計画	天津市教育振興基本計画
	施策	04	生涯学習の推進		
	視点	01	生涯にわたって学べる環境づくり		
重事	01	家庭における教育の推進			

関連事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称

予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	特定	評価対象事業	家庭・地域教育推進事業費	

事業の概要
 家庭や家族を取り巻く社会環境が変化し、家庭のあり方や教育機能が変容している。心豊かでたくましい子どもを育てるため、家庭教育推進事業補助及び親子ふれあいのための社寺等無料開放事業を実施している。また、「おおつ家庭教育5か条」を策定し、小学1年生に広く周知し、家庭教育の推進を図っている。

運営方法 直営 指定管理者 民間委託 出資団体委託 補助金交付 その他 ()

<2. 事業分析> PLAN

目的 (何のために)	地域における様々な家庭教育支援の取り組みを充実させることにより、家庭教育の向上を目指す。
対象 (何又は誰を)	保護者や子ども
手段 (どのようなやり方で)	親の学びや親同士の交流、親子若しくは世代間のふれあいを促進する事業への支援
成果 (どのような状態にするのか)	保護者や子どもたちに、様々な学びやふれあいの場の拡大と充実を図るとともに、家庭教育の意識の高揚を図る。

<3. 経費> DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		1,641	2,725	2,211	2,507	3,420	H31～地域学校協働活動事業増
人件費 B		3,473	5,230	5,349	11,335	11,335	R2～補助事業分を社会教育関係
事業費合計 A+B		5,114	7,955	7,560	13,842	14,755	団体推進事業に統合
事業費 の内訳	国	0	0	0	0	200	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	5,114	7,955	7,560	13,842	14,555	
職員数(人)		0.50	0.85	0.79	1.52	1.52	
職員数 の内訳	正規	0.40	0.51	0.57	1.30	1.30	
	嘱託	0.00	0.30	0.00	0.00	0.00	
	臨時	0.10	0.04	0.22	0.22	0.22	

<4. 指標> DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	
活動指標	1	「家庭教育推進事業補助」事業数	回	目標	30	30	0	0	0	
				実績	29	19	0	-	-	
	社会教育関係団体等が一年間に実施した事業数(令和2年度から社会教育関係団体推進事業費に統合)									
	2	地域学校協働活動推進員委嘱数	人	目標	0	28	38	40	47	
実績				0	34	40	-	-		
推進員委嘱数(H31年度から)										
成果指標	1	「家庭教育推進事業補助」参加者数	人	目標	3,000	3,000	0	0	0	
				実績	2,644	1,613	0	-	-	
	(令和2年度から社会教育関係団体推進事業費に統合)									
	2	地域学校協働本部数	件	目標	0	3	3	3	20	
実績				0	0	0	-	-		
地域学校協働本部数(H31年度から)										

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	近年の急激な社会構造の変化により、地域社会の人間関係の希薄化、核家族化が進み、家庭の教育力が低下してきている。	
これまでの見直しや改善等の経過	平成23年度に「おおつ家庭教育5か条」を策定し、小学生を対象に広く周知した。平成25年度、平成29年度に補助金交付要綱を一部改正した。また、平成27年度で我が家の1か条の公募及び表彰を終了した。	
項目別評価	評価	評価理由
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	保護者に対する学習の機会及び情報の提供を支援することにより、家庭及び地域の教育力の向上が図られる。
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input type="checkbox"/> A. 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	補助対象となる社会教育関係団体等に家庭教育の重要性を周知するとともに、平成29年度からは補助対象事業を保護者に対する学習の機会及び情報の提供、その他の家庭教育を支援するための事業に限定することで、補助金の有効活用を図っている。
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input type="checkbox"/> A. 高い <input checked="" type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	補助事業については、家庭の教育力の向上につながるよう事業内容対し助言を行っている。
総合評価	<input type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模や見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	<input type="checkbox"/> A. 貢献している <input checked="" type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	子どもの育ちを地域で支援する取り組みを行い、本市の目指す「次代を生き抜く力の育成」、「生涯にわたって学べる環境づくり」に寄与している。
---------	--	---

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止
部局長コメント	補助金については、見直しにより、保護者に対しての学習機会の提供など家庭教育の推進につながる事業に対し交付ができています。この成果をふまえ、より効率的かつ効果的に家庭教育の推進を図るとともに、地域学校協働活動などにより、今後、更なる家庭や地域の教育力の向上を図る。
部局長コメント	令和2年度から効果的な事業に対し補助金を交付するよう補助金交付要綱の見直しを図ったところである。引き続き、効率的かつ効果的な事業を展開すべく検討し、家庭教育の推進を図る。また、家庭・地域・学校が連携・協力して社会全体で子どもの成長を支えていくために、地域学校協働活動とコミュニティスクールを一体的に推進する。

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標達成率	指標1	88.13 %	53.76 %	0.00 %
	指標2	0.00 %	0.00 %	0.00 %
成果増減率	指標1	- %	-38.99 %	-100.00 %
	指標2	- %	±0.00 %	±0.00 %
活動単位コスト	指標1	176 千円	418 千円	0 千円
	指標2	0 千円	233 千円	189 千円
成果単位コスト	指標1	1 千円	4 千円	0 千円
	指標2	0 千円	0 千円	0 千円
コスト増減率		- %	+77.49 %	±0.00 %

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	391		
部 局 名	教育委員会	所 属 名	図書館
事務事業名	00822 図書資料整備事業	所 属 長	清水 美幸
		記 入 者	松本 まどか

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	図書館法 読書バリアフリー法 ・大津市子ども読書活動推進計画
	方針	01	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります		
	政策	03	生き生きと健康に過ごせるまちにします		
	施策	04	生涯学習の推進		
	視点	01	生涯にわたって学べる環境づくり		
重事	02	図書館機能充実事業	関連する個別計画		

関連事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称

予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	図書資料整備事業費	

事業の概要
市民の読書要求に応え学習の機会を保障し、生活に根ざした知識・情報提供の拠点として、市民にとって常に魅力的で新鮮な蔵書構成を維持するために必要な図書、雑誌、郷土・行政資料、視聴覚資料、バリアフリー資料、オーディオブック、電子図書等の収集、保存、整備を行う。また、特に子どもの育ちを支援することに重点を置き、本を通して子どもの読書習慣や自ら学ぼうとする意欲の形成を支援する。

運営方法 直営 指定管理者 民間委託 出資団体委託 補助金交付 その他 ()

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	市民の読書要求に応え、生涯学習、教養、調査研究、レクリエーション等に資する。
対象 (何又は誰を)	市民（市内在住、在勤、在学）
手段 (どのようなやり方で)	資料の収集、整理、保存、提供、除籍
成果 (どのような状態にするのか)	市民一人ひとりが、自分の知りたい情報（内容）を有する図書を読み、仕事・勉強・生活に役立てることにより、市民の自己実現（個性を発揮し自分らしく活動できる）に資する。

< 3. 経費 > DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		43,585	39,963	62,750	44,009	46,042	
人件費 B		15,461	14,560	15,923	16,642	16,642	
事業費合計 A+B		59,046	54,523	78,673	60,651	62,684	
事業費の内訳	国	0	0	22,302	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	53	35	54	35	35	
	一般財源	58,993	54,488	56,317	60,616	62,649	
職員数(人)		3.30	3.86	3.85	3.75	3.75	
職員数の内訳	正規	1.20	0.80	0.80	1.00	1.00	
	嘱託	1.40	1.80	0.00	0.00	0.00	
	臨時	0.70	1.26	3.05	2.75	2.75	

< 4. 指標 > DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	
活動指標	1	児童図書蔵書冊数	冊	目標	225,723	225,723	225,723	218,766	218,766	
				実績	204,091	204,398	203,784	-	-	
	市立図書館の蔵書中、児童書（紙しばい、絵本等含む）									
	2	新規図書購入等冊数	冊	目標	28,890	28,890	30,000	30,000	30,000	
実績				32,981	30,911	31,108	-	-		
年間新規図書購入等冊数										
成果指標	1	児童図書貸出冊数	冊	目標	535,000	535,000	373,000	428,000	535,000	
				実績	536,242	532,915	434,528	-	-	
	大津市の図書館で所蔵する児童書の貸出冊数									
	2	開架に占める新規図書比	%	目標	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	
実績				8.4	7.5	8	-	-		
開架スペースに占める新規図書冊数の割合										

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	市民生活を支援する社会教育施設として、利用者の多様化するニーズやコロナ禍の状況を的確に把握し、資料や情報提供すると共に特に若者の活字離れが危惧される中、より一層の魅力ある資料の充実が求められている。	
これまでの見直しや改善等の経過	的確なニーズの把握に努めて利用者サービスの充実を図った。電子図書やオーディオブックを導入して非来館型電子図書館の導入や子ども読書活動推進に向けて児童書の学校貸出用図書整備充実にも努めた。	
項目別評価	評価	評価理由
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	図書館は、市民が生涯にわたり自主的に学習できる社会教育施設であり、一貫した資料収集を継続的に行うことが重要である。また、図書を提供するだけでなく、レファレンスサービスに迅速かつ的確に対応することが求められている。これらの点から、図書館運営は司書資格を持つ専門職の配置を加味した市直営で運営することが妥当である。
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input type="checkbox"/> A. 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	児童図書貸出冊数はコロナ禍の閉館期間があったものの目標を上回った。引き続き児童書の貸出向上に努める。また、新規図書購入数は目標を達成したものの開架に占める割合は目標に達しなかった。加えて電子図書の導入に伴い来館ができない状況下でも図書館の本（電子図書・オーディオブック）を借りることを可能にする環境整備に努めた。
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 高い <input type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	限られた予算の中で1冊でも多く、市民の要望等に応えられるような様々なツールを用いて選書を行っている。また、学校や園に対し図書館資料の有効活用を図ってもらえるよう、調べ学習用図書等や朝の読書活動用の図書を購入している。併せて、電子図書の幅広い活用方法を研究し、図書等と併せて活用する読書環境の充実を引き続き図る。
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模や見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	図書館はあらゆる分野の資料や生涯学習情報を収集し、相談等を含めた提供するための環境を整えていくことで市民の知的要求に応えている。自分に必要な情報を選択し知識を習得することで「子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちづくり」の実現につながり、ひいては「生涯学習の推進」に貢献している。
---------	--	--

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止	市民にとって身近な社会教育施設として、電子図書を含め、多岐にわたって情報サービスの充実に向けた魅力ある資料の収集に努めるとともに、子どもの読書活動をより推進していくため児童書の充実を継続する。併せて今年度は、中学生へも読書活動支援を拡大し、児童書を中心とした資料の充実に向けていく。
部局長コメント	市民の読書要求に応え、学習の機会を保障するため、幅広い資料の充実に向けて、子ども読書活動の推進や市民の生涯学習推進を図るため、新鮮で魅力のある図書資料の充実に向けていく。	

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分	平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標達成率	指標1 100.23 %	99.61 %	116.49 %
	指標2 108.33 %	121.33 %	113.75 %
成果増減率	指標1 - %	-0.62 %	-18.46 %
	指標2 - %	+10.71 %	-6.66 %
活動単位コスト	指標1 0 千円	0 千円	0 千円
	指標2 1 千円	1 千円	2 千円
成果単位コスト	指標1 0 千円	0 千円	0 千円
	指標2 7,029 千円	7,269 千円	9,834 千円
コスト増減率	- %	-5.25 %	+20.84 %

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	392				
部 局 名	教育委員会	所 属 名	図書館	所 属 長	金利 辰夫
事務事業名	00823 北図書館運営維持管理事業	記 入 者	石田 喜代之		

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	図書館法 天津市立図書館条例
	方針	01	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります		
	政策	03	生き生きと健康に過ごせるまちにします	関連する個別計画	第2期大津市教育基本計画・大津市子ども読書活動推進計画
	施策	04	生涯学習の推進		
	視点	01	生涯にわたって学べる環境づくり		
重事	02	図書館機能充実事業			

関連事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称

予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	北図書館運営維持管理事業費	

事業の概要
 図書館の貸出し、レファレンス等図書サービス、および「お話し会」や映画会等の児童サービスを中心に、学校等とも連携し、気軽に利用でき、安全で快適な施設をめざす。

運営方法 直営 指定管理者 民間委託 出資団体委託 補助金交付 その他 ()

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	市民の求める図書を気軽に貸出し、読書要求に応え、読書文化の向上に寄与する。
対象 (何又は誰を)	市民（市内在住、在勤・在学）と近隣の京都市民（サービス限定）
手段 (どのようなやり方で)	図書の貸出、調査相談や複写・閲覧サービス、行事参加を通じて
成果 (どのような状態にするのか)	市民・利用者が豊かな教養を身につける。

< 3. 経費 > DO

	平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考	
直接経費 A	951	746	853	999	1,158		
人件費 B	20,818	24,281	28,023	29,073	29,073		
事業費合計 A+B	21,769	25,027	28,876	30,072	30,231		
事業費の内訳	国	0	0	0	0		
	県	0	0	0	0		
	起債	0	0	0	0		
	その他	49	40	28	60	60	
	一般財源	21,720	24,987	28,848	30,012	30,171	
職員数(人)	7.70	7.35	7.29	7.54	7.54	正規は北文センター兼務	
職員数の内訳	正規	0.55	1.10	1.10	1.20	1.20	館長は再任用
	嘱託	2.24	2.80	0.00	0.00	0.00	
	臨時	4.91	3.45	6.19	6.34	6.34	

< 4. 指標 > DO

	指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
活動指標	1 北図書館の貸出冊数	冊	目標	372,000	372,000	258,000	372,000	372,000
			実績	373,193	379,810	307,936	-	-
※平成31年度分より指標を精査したことによる変更								
活動指標	2 北図書館における団体貸出の団体数	団体	目標	24	25	26	27	28
			実績	23	28	30	-	-
※令和2年度より指標の見直しを行った								
成果指標	1 活動指標1で目標冊数に対する実績冊数の割合→北図書館貸出冊数	%	目標	100	100	100	100	100
			実績	100.3	102.1	119.4	-	-
※平成31年度分より指標を精査したことによる変更								
成果指標	2 活動指標2で目標団体数に対する実績団体数の割合	%	目標	100	100	100	100	100
			実績	95.8	112	115.4	-	-
※平成31年度分より指標を精査したことによる項目削除								

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	少子高齢化の進展とともに世帯平均所得の伸びが見込めず、市民の教養娯楽に関する支出額が低下する傾向にあり、図書の貸出・閲覧サービスのほか、図書館を憩いの場として利用する需要が高まっている。	
これまでの見直しや改善等の経過	利用者アンケートを参考に、読者ニーズに沿った選書に努めた。小学校等の団体貸出・配本サービスを拡大、近隣施設への出前で「本の読み聞かせ」等を実施し、子どもの読書環境の拡充を図っている。	
項目別評価	評価	評価理由
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	県内外の図書館との相互貸出やレファレンス等のサービスを強化し、市民ニーズに応じている。読み聞かせ等のボランティア活動を積極的に支援し、活動領域を拓けることで、子育て世代の読書サービスの充実につなげている。新たな共催事業に取り組み、読書環境の拡充を図るなど、市民の生涯学習を推進するうえで、大きな役割を果たしている。
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 上がっている <input type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	新型コロナウイルス等の影響を受け、貸出者数は前年度より減少したものの、3年連続で貸出冊数が目標を上回った。また、団体貸出の団体数も順調に伸びており、年間を通じて市民ニーズに応じてきたことにより、その成果が現れたものと判断する。
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input type="checkbox"/> A. 高い <input checked="" type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	近隣小学校への配本サービスの拡大（1校あたりの貸出冊数を増加）や、文化ホールを活用した映画会、さらには「ほくぶん子どもまつり」の開催を通じて、子どもの読書環境を効率的に整備し、貸出冊数増につなげることができた。
総合評価	<input type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模や見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	新型コロナウイルスの感染対策を講じて、小学校への配本サービスの拡大等により、児童や大人の読書環境の改善に貢献できた。また、自主映画会や新たにボランティア団体等との共催事業、ほくぶん子どもまつりの開催を通じて、子どもから高齢者に至るまで幅広く利用いただき、北部地域の文化の拠点施設として親しまれている。
---------	--	--

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止
部局長コメント	<p>開館以来、子ども向けサービスに重点を置いた取り組みを進めてきたが、超高齢化の進展とともにニーズの高まっている大人向けサービスを拡大しなければならない。大人向けの映画会やお話会の開催頻度を上げたり、ボランティア団体の協力も得ながら、高齢者施設への出前「読み聞かせ」等のサービスの拡充を図っていく。</p> <p>今後とも、子どもの読書活動を支援する取り組みの充実に努めていく。子ども向け出前サービスだけでなく、来館できない高齢者のために、デイサービス施設等に出向いて「読み聞かせ」等の読書サービスを展開していく。</p>

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分	平成30年度	平成31年度	令和2年度	
目標達成率	指標1	100.30 %	102.10 %	119.40 %
	指標2	95.80 %	112.00 %	115.40 %
成果増減率	指標1	- %	+1.79 %	+16.94 %
	指標2	- %	+16.91 %	+3.03 %
活動単位コスト	指標1	0 千円	0 千円	0 千円
	指標2	946 千円	893 千円	962 千円
成果単位コスト	指標1	217 千円	245 千円	241 千円
	指標2	227 千円	223 千円	250 千円
コスト増減率	- %	+5.63 %	+5.32 %	

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	393		
部 局 名	教育委員会	所 属 名	図書館
事務事業名	00824 和邇図書館運営維持管理事業	所 属 長	黒川弥寿夫
		記 入 者	西本麻理子

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	図書館法
	方針	01	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります		
	政策	03	生き生きと健康に過ごせるまちにします	関連する個別計画	大津市子ども読書活動推進計画
	施策	04	生涯学習の推進		
	視点	01	生涯にわたって学べる環境づくり		
	重事	02	図書館機能充実事業		
関連事業	コード	事務事業名称		コード	所属名称
予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	和邇図書館運営維持管理事業費	
事業の概要	市民への知識情報の提供拠点として、資料の収集・整理・保存を行い、貸出や利用相談、調査研究の支援を行う。遠隔地の市民及び幼稚園・小学校等の子どもへのサービスとして、移動図書館車の巡回を行う。年間事業として映画会、おはなし会、講座、コンサートなどを定期的に開催し、図書館に親しみを持てる環境を整えるとともに、利用し易く、安全で快適な施設の維持管理に努める。				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 出資団体委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他 ()				

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	図書資料等を市民の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するため、
対象 (何又は誰を)	市民（市内在住、在勤、在学）を対象に
手段 (どのようなやり方で)	資料の貸出及び利用相談を行う。また、移動図書館車の巡回、障害者サービス、映画会・おはなし会・講演会・コンサート等の事業を開催し、
成果 (どのような状態にするのか)	市民が読書や調査研究のため気軽に利用できる、地域に役立つ社会教育の拠点施設を目指す。

< 3. 経費 > DO

	平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考	
直接経費 A	11,926	10,122	10,186	10,304	11,908		
人件費 B	30,359	31,622	37,951	35,651	35,651		
事業費合計 A+B	42,285	41,744	48,137	45,955	47,559		
事業費の内訳	国	0	0	0	0		
	県	0	0	0	0		
	起債	0	0	0	0		
	その他	56	36	24	36	36	
	一般財源	42,229	41,708	48,113	45,919	47,523	
職員数(人)	9.58	9.58	9.02	9.02	9.02		
職員数の内訳	正規	1.00	1.00	2.00	2.00	2.00	
	嘱託	5.00	6.00	0.00	0.00	0.00	
	臨時	3.58	2.58	7.02	7.02	7.02	

< 4. 指標 > DO

	指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
活動指標	和邇図書館の貸出冊数→図書館利用促進にかかる事業回数(※)	冊→回	目標	310,000	150	110	125	150
			実績	310,504	153	98	-	-
※平成31年度分より指標を精査したことによる変更								
活動指標	和邇図書館の貸出人数	人	目標	72,000	0	0	0	0
			実績	67,186	0	0	-	-
※平成31年度より指標を精査したことによる項目削除								
成果指標	活動指標1の目標冊数に対する実績冊数の割合→和邇館貸出冊数	%→冊	目標	100	311,000	239,000	280,000	311,000
			実績	100	312,901	266,604	-	-
※平成31年度分より指標を精査したことによる変更								
成果指標	活動指標2の目標人数に対する実績人数の割合	%	目標	100	0	0	0	0
			実績	93	0	0	-	-
※平成31年度より指標を精査したことによる項目削除								

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	少子高齢化が進み人口減が進んでいる地域であるが、幼児から高齢者までが利用できる社会教育施設の拠点施設として図書館の役割は大きい。令和2年度は新型コロナウイルス感染症感染防止のため事業の一部を中止した。		
これまでの見直しや改善等の経過	新規の図書館利用者拡大を図るための利用者ニーズの高いイベントの開催。移動図書館巡回場所の見直しや団体への積極的な貸し出し。また、利用者の安全で快適な施設環境の維持向上を図ってきた。		
項目別評価	評価	評価理由	
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	公共図書館は社会教育の拠点施設であり、常に新しい資料を収集し市民サービスを提供することが必要であり妥当。	
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 上がっている <input type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	コロナ禍で貸出冊数、貸出人数とも前年度に比べて減少したが、目標貸出冊数は達成できた。	
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input type="checkbox"/> A. 高い <input checked="" type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	多様な来館者に対応するため、年間を通しての職員研修を実施し、職員のスキルアップを図っている。また図書館利用サークルと連携して事業を行うなど利用者の多様な要望に答えている。	
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模の見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要		

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	資料の貸出しやレファレンスの対応、移動図書館の運行、定期的な行事の実施などにより地域の社会教育の拠点施設として一定の役割を果たしている。
---------	--	--

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止	公共図書館として、図書資料の充実とともに、移動図書館による幼児から高齢者までの幅広い利用者の利便を図る。また、コロナ禍で中止している事業を感染状況を踏まえて再開するとともに、幼児から成人を対象にした様々な行事を開催する。また、利用者にとって安全で快適な利用環境の維持に努める。
部局長コメント	移動図書館をはじめ事業全般において積極的な展開を図り、市民サービスの向上に努め、施設面においては、適正な維持管理を努めてほしい。	

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標達成率	指標1	100.00 %	100.61 %	111.54 %
	指標2	93.00 %	0.00 %	0.00 %
成果増減率	指標1	- %	+2,801.00 %	-14.79 %
	指標2	- %	-100.00 %	±0.00 %
活動単位コスト	指標1	0 千円	272 千円	491 千円
	指標2	0 千円	0 千円	0 千円
成果単位コスト	指標1	422 千円	0 千円	0 千円
	指標2	454 千円	0 千円	0 千円
コスト増減率		- %	-49.98 %	+17.67 %

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	394				
部 局 名	教育委員会	所 属 名	図書館	所 属 長	清水 美幸
事務事業名	00828 図書館運営維持管理事業	記 入 者	田中 裕子		

＜1. 基本事項＞

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	図書館法 読書バリアフリー法
	方針	01	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります	関連する個別計画	大津市子ども読書活動推進計画
	政策	03	生き生きと健康に過ごせるまちにします		
	施策	04	生涯学習の推進		
	視点	01	生涯にわたって学べる環境づくり		
重要	02	図書館機能充実事業			

関連事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称

予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	図書館運営維持管理事業費	

事業の概要
 利用者及び住民に資料や情報等を提供する地域の情報拠点として、また、読書活動の振興を担う機関として、利用者等の要望や社会の要請に応じ、地域の実情に即した運営に努める。
 高齢者、障害者、乳幼児とその保護者及び外国人その他特に配慮を必要とする者が、安全・快適に利用できるよう、施設・機器の整備充実に努める。

運営方法 直営 指定管理者 民間委託 出資団体委託 補助金交付 その他 ()

＜2. 事業分析＞ PLAN

目的 (何のために)	読書環境の整備
対象 (何又は誰を)	市民（市内在住、在勤、在学）
手段 (どのようなやり方で)	施設の維持管理及び利用者サービスの向上
成果 (どのような状態にするのか)	安全快適な読書環境の確保と共に利用の増加を図る

＜3. 経費＞ DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		25,409	28,185	22,047	21,138	22,865	
人件費 B		86,315	75,216	88,390	93,845	93,845	
事業費合計 A+B		111,724	103,401	110,437	114,983	116,710	
事業費の内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	247	203	191	336	336	
	一般財源	111,477	103,198	110,246	114,647	116,374	
職員数(人)		25.16	23.36	24.28	24.72	24.72	
職員数の内訳	正規	4.70	3.60	2.70	3.50	3.50	
	嘱託	7.40	6.66	0.00	0.00	0.00	
	臨時	13.06	13.10	21.58	21.22	21.22	

＜4. 指標＞ DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
活動指標	1	図書館利用促進に係る事業回数（本館）	回	目標	220	220	150	220	220
		実績		234	225	241	-	-	
館内お話し会、出前講座等図書館利用促進にかかる事業回数				目標					
				実績					
成果指標	1	本館貸出冊数	冊	目標	928,000	928,000	610,000	742,000	835,000
		実績		897,723	871,400	715,754	-	-	
本館における年間貸出冊数				目標					
				実績					

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	381				
部 局 名	教育委員会	所 属 名	生涯学習課	所 属 長	本郷 照彦
事務事業名	03371 おおつ学推進事業			記 入 者	高見 勇人

＜1. 基本事項＞

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	教育基本法
	方針	01	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります	関連する個別計画	大津市生涯学習推進計画
	政策	03	生き生きと健康に過ごせるまちにします		
	施策	04	生涯学習の推進		
	視点	02	地域人材の育成		
重事	01	“大津人”を育む学習機会の充実			

関連事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称

予算事業	会 計	枠	事業種別	予算事業名	始 期 ・ 終 期
	一般会計	政策	評価対象事業	おおつ学推進事業費	

事業の概要
 大津の資源を生かした体験型の連続講座を通して、地域への関心を高め、地域を愛する心を育むとともに、学ぶ者同士がつながり、地域づくりのために行動できる人材の育成を図るため、大津人実践講座を実施する。

運営方法 直営 指定管理者 民間委託 出資団体委託 補助金交付 その他 ()

＜2. 事業分析＞ PLAN

目的 (何のために)	地域への関心を高め、地域を愛する心を育むとともに、学ぶ者同士がつながり、地域づくりのために行動できる人材の育成を図るため、
対象 (何又は誰を)	一般市民
手段 (どのようなやり方で)	体験型の連続講座を通して
成果 (どのような状態にするのか)	地域のために行動する人を増やす。

＜3. 経費＞ DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		440	341	318	454	454	
人件費 B		3,494	3,563	2,376	3,473	3,473	
事業費合計 A+B		3,934	3,904	2,694	3,927	3,927	
事業費 の財源 内 訳	国	0	0	0	0	0	
	県	75	0	0	0	0	県補助は平成30年度で終了
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	65	105	28	150	150	
	一般財源	3,794	3,799	2,666	3,777	3,777	
職 員 数 (人)		0.72	0.68	0.44	0.63	0.63	
職員数 の内訳	正 規	0.30	0.30	0.20	0.30	0.30	
	嘱 託	0.20	0.30	0.00	0.00	0.00	
	臨 時	0.22	0.08	0.24	0.33	0.33	

＜4. 指標＞ DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
活動指標	1	受講者数	人	目標	20	20	10	20	20
				実績	13	21	14	-	-
	大津人実践講座受講者数								
	2			目標					
			実績						
成果指標	1	地域活動への意欲度	%	目標	70	70	70	70	70
				実績	100	94	0	-	-
	アンケート集計結果 (「意欲が沸いた」×1/有効回答数)								
	2			目標					
			実績						

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	人口減少社会を迎え、行政サービスの縮小などが余儀なくされるなか、住民主体の持続可能なまちづくりが必要であり、個の学びだけでなく学習成果を地域づくりに生かすことが求められている。	
これまでの見直しや改善等の経過	平成29年度から実際に特定の地域に入り込み、地域の方と一緒に学ぶ機会を設定するとともに、包括協定を締結している大学と連携しながら、受講生、地域、大学生がともに学ぶ構図にした。	
項目別評価	評価	評価理由
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	行動する人材の育成を意識したプログラムにより、学ぶ者同士がつながり、学習成果を地域づくりに生かそうという主体的な学びの気運が醸成される。
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input type="checkbox"/> A. 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため講座数を半減したことにより成果発表を次年度へ持ち越したが、大学や地域との連携を強化したプログラムにより、受講生にとどまらず、大学生や地域との協働による学習が展開できている。
効率性 (事業手法は効率的であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 高い <input type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	受講料を徴収することで、学びの成果を地域に生かそうという意識の高い者が受講している。
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模の見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	講座修了生で組織する「おおつびと倶楽部」が設立され、地域活動を実施されているとともに、修了生と地域が連携した取り組みも始まった。
---------	--	--

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input checked="" type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止
部局長コメント	講座修了生で組織する「おおつびと倶楽部」の活動の本格化や、受講生の企画案が地域での取り組みにつながるなど「学びと活動の循環」が形成されているとともに、特定の地域に入り込むことで地域住民のまちづくりへの気運も高まっている。今後も引き続き、大学や地域との連携を深めながら、地域づくりを担う人材の育成に取り組む。

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標達成率	指標1	142.85 %	134.28 %	0.00 %
	指標2	- %	- %	- %
成果増減率	指標1	- %	-6.00 %	-100.00 %
	指標2	- %	%	%
活動単位コスト	指標1	302 千円	185 千円	192 千円
	指標2	- 千円	- 千円	- 千円
成果単位コスト	指標1	39 千円	41 千円	0 千円
	指標2	- 千円	- 千円	- 千円
コスト増減率		- %	+5.57 %	±0.00 %

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	382	部 局 名	教育委員会	所 属 名	生涯学習課	所 属 長	本郷 照彦
事務事業名	00013	社会教育関係団体推進事業		記 入 者		友田 有沙	

＜1. 基本事項＞

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	大津市補助金等交付規則、大津市社会教育推進事業補助金交付要綱
	方針	01	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります		
	政策	03	生き生きと健康に過ごせるまちにします		
	施策	04	生涯学習の推進		
	視点	02	地域人材の育成		
重事	99	その他		関連する個別計画	

関連事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称

予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	特定	評価対象事業	社会教育関係団体等推進事業費	

事業の概要
 青少年の健全育成の推進と社会教育活動の振興、家庭の教育力向上を図ること目的に、社会教育関係団体等が実施する社会教育推進事業に対し補助金を交付する。

運営方法 直営 指定管理者 民間委託 出資団体委託 補助金交付 その他 ()

＜2. 事業分析＞ PLAN

目的 (何のために)	青少年の健全育成の推進と社会教育活動の振興、家庭の教育力向上を図る
対象 (何又は誰を)	社会教育関係団体等
手段 (どのようなやり方で)	事業補助金の交付
成果 (どのような状態にするのか)	地域の社会教育事業の充実

＜3. 経費＞ DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		1,260	1,251	500	2,275	2,275	H29～ジュニアリーダー推進事
人件費 B		2,961	3,044	2,931	1,947	1,947	業補助金を統合、R2～家庭教育
事業費合計 A+B		4,221	4,295	3,431	4,222	4,222	推進事業補助金を統合
事業費 の財源 内 訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	4,221	4,295	3,431	4,222	4,222	
職員数(人)		0.57	0.46	0.42	0.30	0.30	
職員数 の内訳	正規	0.27	0.33	0.32	0.20	0.20	
	嘱託	0.15	0.05	0.00	0.00	0.00	
	臨時	0.15	0.08	0.10	0.10	0.10	

＜4. 指標＞ DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
活動指標	1	交付団体数	団体	目標	6	6	10	10	10
				実績	6	6	7	-	-
R2年度～家庭教育推進事業補助金を統合									
成果指標	1	活動事業数(事業補助)	回	目標	35	35	40	40	40
				実績	35	37	21	-	-
H30～事業補助の補助対象事業数を指標とし、R2～家庭教育推進事業補助金を統合									
2				目標					
				実績					

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	新型コロナウイルス感染症の流行により、講演会や研修会などの事業が実施しにくい状況が続いている。また、団体としても活動の幅が狭まっている。		
これまでの見直しや改善等の経過	団体の自主性を促し、社会教育により即した事業とするためH29年度に活動補助金を事業補助金に転換し、H30年度に補助金額の見直しを行い減額した。R2年度からは家庭教育推進事業補助金を統合した。		
項目別評価	評価	評価理由	
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	社会教育関係団体を支援し、活性化を図ることで、本市が目指す「社会教育の充実したまちづくり」につなげる。	
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input type="checkbox"/> A. 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	各団体が実施する事業は概ね効果が高いと判断するが、活動事業数を増やすために補助金制度のさらなる周知に努める必要がある。	
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input type="checkbox"/> A. 高い <input checked="" type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	補助金額を事業内容と対比すると効率よく、本市の社会教育の振興に大きく貢献している。	
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模の見直しが必要	<input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	各団体とも、地域及び学校に根ざした中で、社会教育の推進に係る活動を展開しており、本市の目指す「結の湖都 大津」の創造に大きく貢献している。また、その他大津市が実施する事業及び活動においても、非常に幅広く多大な協力（貢献）をしている。
---------	--	--

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了() <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止
部局長コメント	引き続き、健全かつ適正な補助金交付に努めるとともに、今後は、社会教育に関する事業を実施している新たな団体を公募により募集し、補助金を交付することにより社会教育の推進を図っていく。
部局長コメント	平成29年度から運営補助を事業補助に転換し、より効率的に社会教育関係団体の事業を支援することで、社会教育の充実したまちづくりを推進している。令和2年度より社会教育推進事業を行う団体を広く公募し支援する取り組みを継続するものの、新型コロナウイルス感染症対策を講じた効果的な事業展開を検討していく。

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標達成率	指標1	100.00 %	105.71 %	52.50 %
	指標2	- %	- %	- %
成果増減率	指標1	- %	+5.71 %	-43.24 %
	指標2	- %	%	%
活動単位コスト	指標1	703 千円	715 千円	490 千円
	指標2	- 千円	- 千円	- 千円
成果単位コスト	指標1	120 千円	116 千円	163 千円
	指標2	- 千円	- 千円	- 千円
コスト増減率		- %	-3.74 %	+40.74 %

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	386				
部 局 名	教育委員会	所 属 名	生涯学習センター	所 属 長	遠藤 健
事務事業名	00807	生涯学習センター管理運営事業	記 入 者	岩田 浩二	

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	天津市生涯学習センター 条例・規則
	方針	01	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります		
	政策	03	生き生きと健康に過ごせるまちにします	関連する 個別計画	天津市生涯学習推進基本 計画
	施策	04	生涯学習の推進		
	視点	99	その他		
重事	99	その他			

関連 事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称

予算 事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	生涯学習センター管理運営事業費	
	一般会計		改修・営繕・修繕事業	生涯学習センター施設改修事業費	

事業の概要
市民の生涯学習活動の拠点として、平成4年4月に7つの機能を併せ持つ総合教育文化施設「生涯学習センター」を開館。以来、建物と設備の維持管理と保全を図りながら、市民の自主活動を支援するため、各種学習室や多目的ホールの貸し出し業務を実施すると共に、センターの機能を生かした自主事業を開催し、多くの市民に学習の機会や場を提供している。

運営方法 直営 指定管理者 民間委託 出資団体委託 補助金交付 その他 ()

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	市民の生涯にわたる学習活動を支援するため、自主的な学習や、発表の場を提供する施設として、利用者の利便性や安全性を第一に、適正な施設の管理運営を図る。
対象 (何又は誰を)	市内外を問わず子どもから高齢者までを対象としている。特に、成人は生活上あるいは職業上多くの課題を抱え、かつ学習上種々の制約を持っており、これらの諸条件を満たす学習の機会を求めているもの。
手段 (どのようなやり方で)	自主的な学習グループの活動の場を提供。また、多様化する学習ニーズの中で、より多くの市民が生涯学習活動に参加できるよう、充実した学習情報を提供すること。
成果 (どのような状態にするのか)	市民の生涯にわたる学習の場として、市民が触れ合い、互いに労わり、協働しながら学習意欲を高め、学ぶことの喜びを感じる場になるよう、また団体における仲間づくりの場となるよう、適切な運営を行う。

< 3. 経費 > DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		74,688	68,521	69,248	73,082	99,174	施設等の修繕等政策経費を含む
人件費 B		37,527	39,281	42,206	38,447	38,447	
事業費合計 A+B		112,215	107,802	111,454	111,529	137,621	
事業費 の財源 内 訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	21,926	19,943	11,751	21,778	21,778	
	一般財源	90,289	87,859	99,703	89,751	115,843	
職員数 (人)		8.45	8.90	9.15	8.45	8.45	
職員数 の内訳	正 規	2.50	2.95	3.20	3.20	3.20	
	嘱 託	4.95	4.95	0.00	0.00	0.00	
	臨 時	1.00	1.00	5.95	5.25	5.25	

< 4. 指標 > DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
活動 指標	1	生涯学習関連講座、講演会等開催 事業数	事業	目標	8	8	4	4	4
				実績	10	6	3	-	
	H28から学習事業の実施日数に変更 R2から実施日数、4に変更								
2	視聴覚ライブラリー関連講座開催 日数	日	目標	14	14	7	7	7	
			実績	13	13	0	-		
	子ども映画会、16ミリ映写機講習会等 R2から実施日数、7に変更								
成果 指標	1	ホール・学習室等年間利用者数	人	目標	201,600	201,600	144,000	144,000	144,000
				実績	186,092	169,575	78,423	-	
	入館可能人数(1,000人)×7割×24日×12 R2から7割を5割に変更								
2	講座等参加人数	人	目標	1,470	1,470	300	300	300	
			実績	1,235	685	93	-		
各講座の募集定員+期待参加者数(定員のない講座等実績)×0.8 R2から0.8を0.5に変									

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	持続可能な都市経営を目指すため、公共施設マネジメントの推進により効率的で効果的な施設運営が求められている。当センターは利用者にとって安全で快適な学習環境を提供し、自主的な学習活動の支援に重点を置く。	
これまでの見直しや改善等の経過	当施設は開館以来29年が経過しており、設備機器等の老朽化が進んでいる。計画的な修繕や改修を行い、施設の長寿命化を図るとともに、施設の維持管理に要する経費を精査し、経費の縮減に努めている。	
項目別評価	評価	評価理由
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	自主事業については、生涯学習センター施設ボランティアと協働で事業を実施している。また、市民の自主的な学習活動や学習グループの活動支援に重点を置き、施設ボランティアの協力のもと、効率的な施設運営を行っている。
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input type="checkbox"/> A. 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、貸館の使用規制を実施したため、年間利用者数は前年度に比べて減少した。しかし、感染拡大の安全には十分配慮しながら、施設ボランティアと共に自主事業を実施し、学びたい市民の皆様に安心してお使いいただける学習の場の確保に努めた。
効率性 (事業手法は効率的であるか)	<input type="checkbox"/> A. 高い <input checked="" type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	貸館業務においては、社会教育施設として、公正公平を基本とし、稼働率の向上に努めている。
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模や見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	市内外を問わず幅広い年齢層の生涯学習の場として、また、行政関係者等に対し、事業活動の場を提供し、天津市の生涯学習の拠点として、その推進に寄与している。
---------	--	---

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止	天津市に関する学習情報や文化情報の拠点施設として、学習情報の収集を行い、市民からの学習活動の相談業務や情報発信を行っていくもの。また、市民グループの自主的な学習活動を支援し、新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、センターの利用促進を図り、安全で快適な学習環境の提供に努める。
部局長コメント	市民の自主的な生涯学習の拠点として、適切な情報発信を行い、安全で快適な学習環境を維持し、複合施設であるセンターの魅力向上に取り組む。また、引き続き利用促進を図るとともに、新型コロナウイルス感染症対策に留意し、効率的で持続可能な運営に努める。	

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標達成率	指標1	92.30 %	84.11 %	54.46 %
	指標2	84.01 %	46.59 %	31.00 %
成果増減率	指標1	- %	-8.87 %	-53.75 %
	指標2	- %	-44.53 %	-86.42 %
活動単位コスト	指標1	11,221 千円	17,967 千円	37,151 千円
	指標2	8,631 千円	8,292 千円	0 千円
成果単位コスト	指標1	0 千円	0 千円	1 千円
	指標2	90 千円	157 千円	1,198 千円
コスト増減率		- %	+18.97 %	+231.14 %

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	387				
部 局 名	教育委員会	所 属 名	北部地域文化センター	所 属 長	金利 辰夫
事務事業名	00812 北部地域文化センター運営事業	記 入 者	石田喜代之		

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	天津市北部地域文化センター条例 第2期天津市教育振興基本計画
	方針	01	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります		
	政策	03	生き生きと健康に過ごせるまちにします		
	施策	04	生涯学習の推進		
	視点	99	その他		
重事	99	その他	関連する個別計画		

関連事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称

予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	一般事務費	北部地域文化センター運営事業費	

事業の概要
 北部地域における文化活動や生涯学習活動の拠点として、積極的な活用を図る。また、複合施設（文化ホール・北図書館・堅田少年センター・堅田児童館）としての維持管理の充実に努めている。

運営方法 直営 指定管理者 民間委託 出資団体委託 補助金交付 その他 ()

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	市民の文化芸術活動や生涯学習の活動を支援する施設として、市民の利用促進を図るとともに、安心して安全に利用できる施設の整備充実を行う。
対象 (何又は誰を)	市民
手段 (どのようなやり方で)	情報紙（北部地域文化センターだより）発行、自主事業ポスター・チラシ作成、ホームページの充実等により、施設の利用促進を広報（PR）する。また、年次計画等により施設の整備等を行う。
成果 (どのような状態にするのか)	文化芸術活動や生涯学習の拠点施設として市民の幅広い層に利用いただき、地域の文化振興について住民の参加意識が高まり、北部地域全体の文化力が向上する。

< 3. 経費 > DO

	平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考	
直接経費 A	36,756	31,595	39,188	41,299	49,636		
人件費 B	11,964	13,256	13,051	14,608	14,608		
事業費合計 A+B	48,720	44,851	52,239	55,907	64,244		
事業費の内訳	国	0	0	0	0		
	県	0	0	0	0		
	起債	0	0	0	19,200	0	
	その他	3,704	2,707	2,906	3,080	3,080	
	一般財源	45,016	42,144	49,333	33,627	61,164	
職員数(人)	4.00	4.15	3.75	3.75	3.75		
職員数の内訳	正規	0.15	0.30	0.30	0.85	0.85	R3から所長は再任用
	嘱託	2.95	2.95	0.00	0.00	0.00	正規職員は北図書館職員の兼務
	臨時	0.90	0.90	3.45	2.90	2.90	R2から会計年度任用職員

< 4. 指標 > DO

	指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 ホール利用人数	人	目標	20,000	20,000	10,000	20,000	0
			実績	20,603	18,262	10,628	-	-
	2 ホール貸出件数	件	目標	150	150	90	150	0
			実績	192	178	151	-	-
成果指標	1 利用者数対前年比	人	目標	1	1	0.55	1	1
			実績	1	0.89	0.58	-	-
	2 稼働率	%	目標	60	60	30	60	0
			実績	59.9	58.6	49.7	-	-
ホール貸出日数/ホール利用可能日数（開館日数：令和2年度は296日・貸出日数：147日）								

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	平成5年7月の開設以来、北部地域の文化芸術活動・生涯学習の拠点施設として根つき、地域住民に親しまれてきたが、少子高齢化や市民ニーズの多様化の進展に伴い、新規需要に応える事業展開が求められている。		
これまでの見直しや改善等の経過	平成25年度から自主事業を地域密着型の文化事業に見直し、また平成29年度以降はニーズの高い新規自主事業を積極的に展開し、着実に成果をあげてきた。		
項目別評価	評価	評価理由	
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	年間を通じて高齢者から子どもまで幅広い層の利用があり、北部地域の文化芸術活動・生涯学習の拠点施設として、地域住民に親しまれている。	
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 上がっている <input type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	新型コロナウイルス感染拡大の影響から、目標稼働率を30%に見込んだが、自主事業を積極的に取入れた結果、最終的に稼働率が49.7%となった。また、当センターは、地域住民が身近に文化芸術活動に接する場として活用されている。	
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 高い <input type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大人数による催し及び式典等の開催がなかったが、少人数での会議等の件数が増加したことにより、ホールの利用件数は、対前年度比▲17.9%の減少にとどまった。	
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模や見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要		

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	北部地域の文化芸術活動や生涯学習の拠点施設として、子どもから高齢者に至るまで年間を通じて幅広い利用がある。自主事業では、様々な写真展を企画し、入場者数が対前年度比37.6%増となり、身近に芸術文化に触れる機会を提供できた。
---------	--	---

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止	平成29年度から始めた新規自主事業を年々シェイプアップするとともに、稼働率を上げながら使用料収入の増加につなげていき、老朽化した施設の大規模な維持修繕を行い、今後とも継続して魅力ある事業を計画し推進していく。
部局長コメント	北部地域の文化振興を担う拠点施設として、引き続き魅力ある自主事業を推進するなかで、幅広いホール利用者の拡大につなげていく。本市他部局の事業の中には市内中心部で開催されるが、北部地域では開催されないものもあるため、庁内での連携を図ることにより、事業展開の拡大に努めていく。	

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標達成率	指標1	100.00 %	89.00 %	105.45 %
	指標2	99.83 %	97.66 %	165.66 %
成果増減率	指標1	- %	-11.00 %	-34.83 %
	指標2	- %	-2.17 %	-15.18 %
活動単位コスト	指標1	2 千円	2 千円	4 千円
	指標2	253 千円	251 千円	345 千円
成果単位コスト	指標1	48,720 千円	50,394 千円	90,067 千円
	指標2	813 千円	765 千円	1,051 千円
コスト増減率		- %	-1.23 %	+58.02 %

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	388				
部 局 名	教育委員会	所 属 名	和邇文化センター	所 属 長	伊藤 善紀
事務事業名	00806 和邇文化センター管理運営事業	記 入 者	伊藤 善紀		

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	天津市和邇文化センター条例
	方針	01	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります		
	政策	03	生き生きと健康に過ごせるまちにします	関連する個別計画	
	施策	04	生涯学習の推進		
	視点	99	その他		
重事	99	その他			
関連事業	コード	事務事業名称		コード	所属名称
予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	和邇文化センター管理運営事業費	
事業の概要	和邇文化センターは、市民の文化及び教養の高揚並びに芸術の振興に寄与するため貸館をはじめ関連する事業を実施している。同センターは昭和63年4月に旧志賀町民センターとして開館し、500席（固定席）のホールと20名収容の会議室がある。ホールはピアノや日本舞踊などの発表会や各種講演会などに活用されている。施設には、和邇支所や和邇すこやか相談所・和邇あんしん長寿相談所及び和邇コミュニティセンターが併設されている。				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 出資団体委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他 ()				

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	「自ら学ぶ」「自分で学ぶ」ことを基本とする生涯学習への関心の高まりと個性を生かし多様化、高度化している人々の要求に対応するため。
対象 (何又は誰を)	市民及び関係団体
手段 (どのようなやり方で)	ホームページ、広報おつをはじめ、毎月発行の和邇文化センターだより等の広報媒体への掲載及び各種パンフレットの配布により周知に努める。
成果 (どのような状態にするのか)	利用促進を図ることで、広く市民等に利用していただき生涯学習の場として貢献する。

< 3. 経費 > DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		21,003	20,739	28,407	27,524	55,241	
人件費 B		8,115	8,155	7,800	9,983	9,983	
事業費合計 A+B		29,118	28,894	36,207	37,507	65,224	
事業費の内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	1,000	0	
	その他	2,911	1,607	1,693	2,424	2,424	
	一般財源	26,207	27,287	34,514	34,083	62,800	
職員数(人)		2.00	2.30	2.08	2.45	2.45	
職員数の内訳	正規	0.50	0.50	0.50	0.87	0.87	
	嘱託	1.00	0.50	0.00	0.00	0.00	
	臨時	0.50	1.30	1.58	1.58	1.58	

< 4. 指標 > DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
活動指標	1	自主事業参加延べ人数	人	目標	1,000	1,000	0	200	1,000
				実績	829	249	0	-	-
	公開講座を含む参加者人数								
2	開館日数	日	目標	282	289	248	291	294	
			実績	282	289	250	-	-	
		営業している日数							
成果指標	1	入館者数	人	目標	14,000	14,000	4,700	4,700	14,000
				実績	19,327	14,502	8,737	-	-
			ホール使用時の入館者数						
	2	ホール稼働率	%	目標	35	35	35	35	35
実績				41	32	26	-	-	
		貸館(稼働)日数÷開館日							

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	ホールの利用状況は、社会構造の変化や少子高齢化の進展に加えて、新型コロナウイルス感染拡大防止対策が進む中、今後は、新たな視点により、利活用の促進や自主事業を開拓していく。	
これまでの見直しや改善等の経過	当文化ホールは、座席が固定式で、ゆったりと座り心地がよく、長時間の舞台活用をアピールし利用促進を図っている。また、新型コロナウイルス感染防止対策の徹底など、多目的にわたるホールの利活用を図っている。	
項目別評価	評価	評価理由
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	市民及び各種団体の日頃の成果を発表する場や、講演会などを受講する場として、照明や音響設備の整った施設を、安価な利用料で提供することは市民にとって必要である。
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input type="checkbox"/> A. 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	設備の老朽化等の課題があるが、舞台を利用した事業や、ホールの固定席を利用した会議などを周知したことなどにより平成29年度以降、稼働率がやや向上している。
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input type="checkbox"/> A. 高い <input checked="" type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	ホールが固定席のために利用が限定される部分もあるが、発表会等だけでなく、各種会議や総会・研修会の場としても、広範囲にわたるホールの利活用を図り利用者の増加に努めている。
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模や見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	社会環境の変化により、稼働率は一旦低下したが、生涯学習のための催し物や成果発表する場として、一定の整った設備機器を有するホールは、市民の生涯学習拠点として貢献しており、満足度は高い。
---------	--	---

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input checked="" type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止
部局長コメント	施設設備の老朽化が著しい中ではあるが、他施設における顧客満足度等を研究し、何が当ホールに欠けているのかを認識することにより、現在の文化ホールの利用範囲だけでなく、多目的に有効活用できるように、施設整備の改修も含めて検討していく。また、社会環境の変化に対応できる新たな視点による利活用の方法や自主事業を開拓していく。 新しい生活様式や社会の活性化、高齢者の社会への参加度、青少年の健全育成等、社会全体としての利用率は年々高いものと成っていている。財政状況厳しい中ではあるが、崇高な理念である「教育は人を育てる」を忘れず、生涯学習の場として、更なる利用促進とサービスの向上に努める。

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標達成率	指標1	138.05 %	103.58 %	185.89 %
	指標2	117.14 %	91.42 %	74.28 %
成果増減率	指標1	- %	-24.96 %	-39.75 %
	指標2	- %	-21.95 %	-18.75 %
活動単位コスト	指標1	35 千円	116 千円	0 千円
	指標2	103 千円	99 千円	144 千円
成果単位コスト	指標1	1 千円	1 千円	4 千円
	指標2	710 千円	902 千円	1,392 千円
コスト増減率		- %	+29.68 %	+81.10 %

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	389		
部 局 名	教育委員会	所 属 名	科学館
事務事業名	00197 科学館事業	所 属 長	遠藤 健
		記 入 者	古川 恵子

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	生涯学習センター条例 第3条
	方針	01	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります		
	政策	03	生き生きと健康に過ごせるまちにします	関 連 する 個別計画	
	施策	04	生涯学習の推進		
	視点	99	その他		
重事	99	その他			
関連事業	コード	事務事業名称		コード	所属名称
予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	科学館事業費	
事業の概要	児童・生徒や一般市民の科学への興味関心を育て、科学知識の普及や向上を図るため、下記の科学館事業を実施する。 ・サイエンス屋台村・わくわくサイエンス・科学講演会・星空観望会・昼間の星観察・太陽黒点観察・科学工作教室・子育て支援				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 出資団体委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他 ()				

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	科学への興味・関心を高め、科学知識の普及や向上を図るため、
対象 (何又は誰を)	幼児・児童・生徒及び一般市民を対象に、
手段 (どのようなやり方で)	館内施設を活用した諸事業を企画することで科学に関する学習や体験の場を提供し、
成果 (どのような状態にするのか)	科学の振興や科学知識の幅広い習得を図る。また、幼児から一般市民向けまで様々な年齢層を対象にした事業を実施することで、多様な年齢層の来館が見込める。

< 3. 経費 > DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		970	1,019	843	1,310	1,312	
人件費 B		2,895	2,916	3,951	3,951	3,951	
事業費合計 A+B		3,865	3,935	4,794	5,261	5,263	
事業費 の内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
一般財源		3,865	3,935	4,794	5,261	5,263	
職員数(人)		0.81	0.81	1.12	1.12	1.12	
職員数 の内訳	正規	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	
	嘱託	0.63	0.63	0.00	0.00	0.00	
	臨時	0.08	0.08	1.02	1.02	1.02	

< 4. 指標 > DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
活動指標	1	実施回数	回	目標	150	150	50	100	0
		実績		176	154	75	-	-	
		科学館事業を実施した総回数							
活動指標	2			目標					
				実績					
成果指標	1	参加者数	人	目標	7,000	7,000	1,200	2,000	0
		実績		7,141	7,058	1,473	-	-	
		事業参加者の年間総数							
成果指標	2			目標					
				実績					

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	科学技術の進展が飛躍的に進む中であっても、基礎的な科学知識の未修得な状況や子どもの理科離れが見られるため、子どもが身近な自然や科学の現象に触れ、体感的に学び理解を深める機会が必要とされている。	
これまでの見直しや改善等の経過	新型コロナのため、4、5月は休館した。開館後も、三密を避けるため事業を中止したり、規模を縮小し、参加定員を減らした。	
項目別評価	評価	評価理由
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	幼児や小学生、中高生から大人にいたるまで、すべての市民を対象にして幅広い多様な事業を企画・実施している。特に幼児とその保護者に対する事業も実施している。
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 上がっている <input type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	展示ホールやプラネタリウムへの来館者数を増やすことは、密を避けることと相反するために、単純に集客を喜ばない状況であった。参加者は減っても満足度は高かった。
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input type="checkbox"/> A. 高い <input checked="" type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	予算と人員に限りがある中で、職員による創意工夫で事業を実施しており、「わくわくサイエンス」や「サイエンス屋台村」では市の予算負担が最小限となるよう運営している。定員を減らし参加人数が減少したことで、効率は少し低下した。
総合評価	<input type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模の見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	科学に関する多様な事業の実施により理科教育の振興や普及に貢献している。特に、幼児児童生徒にとって、諸事業が科学への興味関心を高める機会となっている意義は大きい。
---------	--	--

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止
部局長コメント	<p>地域の自然や科学技術に関する理解を深めるためには、魅力的な事業展開により、多くの方に来館いただくことが重要である。が、新型コロナといった新たな課題が発生し、「三密」をさける形でどのような手段で実施していくかを見直さなければならない。利用者ニーズも踏まえながら、今後も継続できるよう改善を図っていく。</p> <p>幼児児童生徒や市民に対して多彩な科学現象や自然に触れる機会を提供し、科学全般に対する興味や関心を高めてもらうことで科学教育の振興や普及に貢献しており、今後も引き続き新たな創意工夫のもとに各種事業を展開することで推進を図っていく。</p>

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分	平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標達成率	指標1 102.01 %	100.82 %	122.75 %
	指標2 - %	- %	- %
成果増減率	指標1 - %	-1.16 %	-79.13 %
	指標2 - %	%	%
活動単位コスト	指標1 21 千円	25 千円	63 千円
	指標2 - 千円	- 千円	- 千円
成果単位コスト	指標1 0 千円	0 千円	3 千円
	指標2 - 千円	- 千円	- 千円
コスト増減率	- %	+3.00 %	+483.75 %

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	390		
部 局 名	教育委員会	所 属 名	科学館
事務事業名	02510 科学の子育成事業	所 属 長	遠藤 健
		記 入 者	古川 恵子

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	生涯学習センター 第3条
	方針	01	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります		
	政策	03	生き生きと健康に過ごせるまちにします	関連する個別計画	
	施策	04	生涯学習の推進		
	視点	99	その他		
	重事	99	その他		

関連事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称

予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	科学の子育成事業費	

事業の概要	子どもたちに科学館施設を使った学習機会を設けると共に、科学やものづくりに興味・関心を持つ児童・生徒に対し、ものづくり活動や先端科学技術に触れる機会を提供する。 ・移動教室 ・大津少年少女発明クラブ ・I Fクラス ・出張科学教室
-------	---

運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 出資団体委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他 ()
------	---

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	子どもたちの科学技術や自然環境に対する興味・関心を高め、生き生きと学びながら「生きる力」を育むため、
対象 (何又は誰を)	幼児・児童・生徒を対象に、
手段 (どのようなやり方で)	科学館施設を活用した学習や魅力ある科学教室、ものづくり活動や最先端の科学技術に触れる機会を提供し、
成果 (どのような状態にするのか)	科学やものづくりを身近に感じることで生活に密着した科学技術の有用性を理解し、さらに発展的な学習意欲の向上につなげる。

< 3. 経費 > DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		2,903	2,983	2,917	3,570	3,645	
人件費 B		3,169	3,196	3,276	3,276	3,276	
事業費合計 A+B		6,072	6,179	6,193	6,846	6,921	
事業費の内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	2,364	0	
	一般財源	6,072	6,179	6,193	1,206	6,921	
職員数 (人)		0.78	0.78	0.80	0.80	0.80	
職員数の内訳	正規	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	
	嘱託	0.59	0.59	0.00	0.00	0.00	
	臨時	0.03	0.03	0.64	0.64	0.64	

< 4. 指標 > DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
活動指標	1	実施回数	回	目標	60	60	40	50	0
		実績		62	62	34	-	-	
		事業を実施した総回数							
成果指標	1	参加者数	人	目標	3,500	3,500	2,800	3,000	0
		実績		3,916	3,818	2,301	-	-	
		事業参加者の年間総数							
2		目標							
		実績							

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	科学技術の進歩が著しい昨今においても児童生徒の理科離れの傾向が見られることから、魅力ある科学教室を実施し、科学に関する興味関心を高める取り組みが求められている。	
これまでの見直しや改善等の経過	市内全小学校6年生にプラネタリウムや科学実験による理科授業を実施している。また、企業や大学の協力により、最先端の科学技術に触れる科学教室を実施している。コロナ対策のため、事業の一部中止や変更をした。	
項目別評価	評価	評価理由
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	学習指導要領においても、各学校が地域の博物館や科学館と積極的に連携協力して学習を進めるよう提言されており、児童にとって有益な体験学習の場となっている。
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input type="checkbox"/> A. 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	移動教室では、科学館施設を活用した学習により理科の学習意欲の向上につながっている。大学や企業の協力による事業は予定通りは実施できなかったが、内容は充実した。
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input type="checkbox"/> A. 高い <input checked="" type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	移動教室で一度にプラネタリウムに入る定員を落としたり、事業の定員を減らしたため、効率性は低下したが、一人ひとりに対するより手厚い運営となっている。
総合評価	<input type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模や見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	児童生徒が身近な科学技術に触れながら科学に対する興味関心を高め、体験活動を通して学びを深める事業となっており、児童生徒の学習意欲の向上に貢献している。
---------	--	---

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止
部局長コメント	「移動教室」は児童が科学館施設を活用して効果的に学習できる場として大変有効で貴重な事業である。また、他の事業も好奇心旺盛な児童生徒に発展的な学習機会を提供する場となっている。しかし令和2年度は実施を見合わせた学校が10校あった。また「三密」を防ぐための改善を加えて継続して取り組んでいく。

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標達成率	指標1	111.88 %	109.08 %	82.17 %
	指標2	- %	- %	- %
成果増減率	指標1	- %	-2.50 %	-39.73 %
	指標2	- %	%	%
活動単位コスト	指標1	97 千円	99 千円	182 千円
	指標2	- 千円	- 千円	- 千円
成果単位コスト	指標1	1 千円	1 千円	2 千円
	指標2	- 千円	- 千円	- 千円
コスト増減率		- %	+4.37 %	+66.30 %